

会議概要

会議名 : 令和4年度第2回益田市入札・契約適正化委員会
日時 : 令和4年12月8日(木) 13:15～
場所 : 市民学習センター103号室
委員 : 林 秀司(大学教授)、田中秀樹(弁護士)
大野利昭(税理士)、前田邦男(学識経験者)
出席者 : 委員4名、事務局2名

議 事

(1) 令和4年度(前期)入札結果状況について
入札結果の比較

令和3年度9月末 入札結果

入札件数 工事関係

総合評価	0件
一般競争入札	0件
簡易型一般競争入札	38件
指名競争入札	66件
小計	104件

令和4年度9月末 入札結果

入札件数 工事関係

総合評価	4件
一般競争入札	0件
簡易型一般競争入札	33件
指名競争入札	76件
小計	113件

入札件数 物品関係

総合評価	0件
一般競争入札	9件
簡易一般競争入札	0件
指名競争入札	34件
小計	43件

入札件数 物品関係

総合評価	0件
一般競争入札	10件
簡易一般競争入札	0件
指名競争入札	38件
小計	48件

入札件数 合計	147件
---------	------

入札件数 合計	161件
---------	------

予定価格・落札金額 工事関係

予定価格	2,555,346,000円
落札金額	2,073,806,000円
総落札率	81.16%

予定価格・落札金額 工事関係

予定価格	1,168,852,000円
落札金額	1,099,547,000円
総落札率	94.07%

予定価格・落札金額 物品関係

予定価格	150,112,298 円
落札金額	126,509,450 円
総落札率	84.28%

予定価格・落札金額 物品関係

予定価格	401,293,810 円
落札金額	352,830,848 円
総落札率	87.92%

予定価格・落札金額 合計

予定価格	2,705,458,298 円
落札金額	2,200,315,450 円
総落札率	81.33%

予定価格・落札金額 合計

予定価格	1,570,145,810 円
落札金額	1,452,377,848 円
総落札率	92.50%

1 令和4年度前期の発注件数・発注金額について

建設工事関係の入札件数は前年度より増加したが、金額は大きく減少した。要因は、前年度に「久城が浜センター施設基幹的設備改良工事」の約10億円があったためであり、それを除くと、金額も増加した。

物品関係の入札件数及び金額は前年度より増加した。要因は、1.7億円の「益田市立中学校教育用コンピュータシステム更新業務」という大きい案件があったためである。

近年の動向としては、過去5年で比べると、発注件数は過去最高、金額は4番目となった。

2 令和4年度前期の落札率について

工事関係の落札率は、前年度に比べると大きく上昇し、昨年度、金額の大きい工事であった「久城が浜センター施設基幹的設備改良工事」の落札率が70.94%と低かったことが影響した。その工事を除くと、落札率は93.85%で、わずかな上昇となった。

物品関係の落札率は、前年度に比べると上昇し、過去5年で減少傾向だったのが下げ止まった。比較的金額の大きい案件である「益田市立中学校教育用コンピュータシステム更新業務」の落札率が97.61%と高かったことが影響していた。

また、くじによる落札が15件から12件に減少した。全て最低制限価格及び調査基準価格と落札額が同額であった。

低入札調査等

最低制限失格	15	件
	20	者

低入札	1	件
	1	者

数値的判断基準失格	1	件
	1	者

低入札調査失格	0	件
	0	者

低入札での契約	0	者
---------	---	---

低入札調査等

最低制限失格	9	件
	15	者

低入札	0	件
	0	者

数値的判断基準失格	0	件
	0	者

低入札調査失格	0	件
	0	者

低入札での契約	0	者
---------	---	---

3 最低制限価格失格について

前年度に比べて件数・業者数はともに減少した。工種別でみると、土木一式工事の3件、建築一式工事の3件、解体工事の2件、とび・土工・コンクリート工事の1件であった。

低入札については、発生がなかった。

4 入札の不調・不落について

前年度に比べて件数は16件から19件と微増した。工種別でみると、解体工事の不落が0件から4件に増加していた。

【委員】今年度前期の入札不調・不落件数の多いことに対する今後の対策は。

【事務局】入札不調・不落増加の要因のうち、解体工事については公表されている単価は少なく、不確定要素が大きい業者見積もりによる項目が多かったため、業者にとって積算が難しいと推察され、結果的に予定価格内の応札が少なかった。現状、解体工事としての入札件数が少なく、今後入札件数が増えてくれば、業者は実績を見ながら単価を推察することができる部分もあるので、しばらく入札状況を注視したい。

また、最近では市や県の土木工事の発注が増えたため、業者が忙しく入札に参加できないという声も聞いているので、再入札の時に業者を増やす、又は緊急な場合は随意契約を行う等対策をしていきたい。

【委員】工事発注が滞るほどの状況なのか。

【事務局】現在のところ、何とか工事発注はできている。

【委員】最近資材費等が高騰しているという話を聞いているが、入札には影響がないのか。

【事務局】資材を多く扱う工事については、落札率が上がったり、予定価格超過による入札不落が発生したりしている。

また、入札後にも、資材費の高騰、又は資材調達が遅れることによる工期延長で、契約変更を行っている工事が多く発生している。

【委員】資材費等高騰の対策は行っているのか。

【事務局】単価について、できるだけ最新のものに見直しをしているが、どうしても時間差が生じてしまう。予期しない物価上昇の際には、工事請負契約内にあるインフレスライド条項で対応したい。

(2) 抽出案件の審議（令和4年度上半期4月～9月分）

建設工事：総合評価方式一般競争入札（4件）

①市道松ヶ丘浜寄線道路改良工事（1001）

【事務局】この工事は、千葉県八街市の通学児童を巻き込む交通事故の発生を契機に、通学路及び生活道路の安全対策を図るためのものであり、地元及び益田警察署からの相談も寄せられている市道松ヶ丘浜寄線の高津中学校北口から長者原踏切まで見通しの良い直線道路は、通過車両の速度が速く、交通量も多いが、歩道が無い道路であり、通学路及び生活道路の中でも対策の緊急性の高い道路である。

このため、本工事では、歩行者の安全を確保するための歩道の整備及び車両速度低減を行うための狭窄の整備を目的として行うものである。

入札参加資格として、営業所所在地は、益田市内に主たる営業所を有する者、総合点数等は、土木一式工事の総合点数が650点以上のもの、施工実績は、島根県内における公共工事において元請として過去15年間に1契約500万円以上の完成した土工一式工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が20パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が500万円以上。配置技術者は、監理技術者又は主任技術者として1級土木施工管理技士、1級建設機械施工技士、技術士、国土交通大臣認定者のいずれかを配置できること。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格（15,400,000円）が設定されている。

益田市建設工事総合評価方式実施要綱第3条第1項第2号の規定による簡易型総合評価方式で入札を実施した。

1者の申請・応札があり、予定価格以下、調査基準価格以上であった。総合評価を実施し、大畑建設(株)を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】総合評価は何のためにやっているのか。その目的は達しているのか。形式上整えているだけで効果があるのか疑問に感じる。

【事務局】公共工事は、経済性に配慮しつつ価格以外の多様な要素をも考慮し、価格及び品質が総合的に優れた内容の契約がなされることにより、確保されなければならないと規定されていることから、益田市では、平成19年度から総合評価方式を本格導入し、公共工事の施工者には必要な技術力を求めることで、品質確保、性能向上、長寿命化、将来維持管理費の低減あるいは環境対策等において住民、利用者に利益がもたらされると考えている。

例えば、この工事は、学校に近接した道路工事であり、通学する子どもの影響を最小限にする観点から、通学しない期間又は時間帯を有効活用するような工程管理、作業時における歩行者に対する安全対策、工事現場付近の住民からの苦情等を未然に防ぐ配慮という施工上の留意点を評価項目として参加業者に求めた。こういった具体的な提案を求めることができるのは、総合評価のメリットの1つと考えている。また、この工事では、誘導員の人数を減らせたことで工事費の低減につながったり、周辺住民や道路利用者からの苦情がなかったりしたことで、結果的に価格及び品質が総合的に優れ、住民や利用者に対する利益が高まった工事になったと評価している。

【委員】工事によって細かく評価項目を変えることについて、効果があるのか疑問で、業者にとって分かりにくいのではないか。

【事務局】総合評価について、全て別々の評価項目ではなく、企業と技術者の評価は共通の項目として必ず入れている。そして、地域貢献度の評価項目については、工事内容に合わせて項目を選択するが、最近では、建設業の従事者が高齢化し、また、減少し続けている状況を改善するため、働き方改革を考慮して、労働福祉関連と若手技術者の項目を重視している。

土木工事の場合、市道等の維持修繕業務、除雪業務、災害復旧工事の受注実績も評価している。こうした評価項目を入れることで、市として企業に取り組んでもらいたいメッセージになると考えている。

②二川小学校跡施設改修（建築）工事（1002）

【事務局】この工事は、昭和59年3月に新築され、以降、平成25年3月の統合による廃校までの間、地域の教育施設としての役割を果たして来た、旧二川小学校の統合後の施設の活用について、青少年を対象とした宿泊機能を有した拠点施設として活用するとの提案を受け、美都温泉等関連施設との連携による交流人口や関係人口の拡大、美都地域全体の活性化に資する施設として、1階を地域の活動・体験・交流拠点として公民館が入り、2階は青少年の活動拠点としての簡易宿泊施設に改修するものである。

入札参加資格として、営業所所在地は、益田市内に主たる営業所を有する

者、総合点数等は、建築一式工事の総合点数が700点以上のもの、施工実績は、元請として過去15年間に1契約3,000万円以上の完成した建築一式工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が20パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が3,000万円以上。配置技術者は、監理技術者又は主任技術者として1級建築士、1級建築施工管理技士、国土交通大臣認定者のいずれかを配置できること。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格（55,900,000円）が設定されている。

益田市建設工事総合評価方式実施要綱第3条第1項第1号の規定による特別簡易型総合評価方式で入札を実施した。

2者の申請・応札があり、1者が予定価格超過、1者が予定価格以下、調査基準価格以上であった。総合評価を実施し、(株)野村組を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】総合評価方式であり、参加業者が複数あったので、選定方法等について確認したいため抽出した。

【事務局】評価項目について、建築一式工事の場合、消防団協力事業所の認定、労働福祉関連、若手技術者を評価項目として採用している。入札結果としては、1者が予定価格超過ということで、競争面では機能しなかったが、地域貢献等の価格以外の評価について一定の効果があった。

【委員】高度な技術を要する工事だから総合評価方式を採用したのか。また高度な技術とはどの程度を指すのか。

【事務局】益田市では、5千万円以上の工事では、原則として総合評価方式を適用している。そして、金額と工事内容によって、標準型、簡易型、特別簡易型を選択している。高度な技術について、客観的な数値では示せないが、市が総合評価方式を適用する際には技術審査会を設置していて、一般的な工事と比較して、個別に判断している。

【委員】労働福祉関連とは具体的に何を評価するのか。

【事務局】今回だと、障がい者雇用で、法定雇用率を超えているか又は法定雇用率を適用されない業者は1人以上雇用しているかで評価する。もう一つは、育児介護休業法を超える制度を業者として規定していること、若しくは「こっころカンパニー」又は「ますだ子育て応援宣言企業」に認定されていることで評価する。

【委員】若手技術者は、何歳までを指すのか。

【事務局】市では、40歳未満を若手技術者としている。

③益田市光ファイバケーブル整備事業（その2）（1003）

【事務局】 この工事は、G I G Aスクールへの対応や行政事務のリモート対応など、新型コロナウイルスの感染拡大の防止その他地域の持続可能性の向上を目的として、新たに教育・行政施設へ専用光ケーブル網を敷設、機器を設置し、情報ネットワークの機能強化を図ることを目的とする。

本工事は、既設の光ケーブル敷設ルートへ新たな光ケーブルを一束化し、敷設するものである。

入札参加資格として、営業所所在地は、営業所を島根県内に有する者、総合点数等は、電気通信工事の総合点数が700点以上の者、施工実績は、島根県内における公共工事において元請として過去15年間に1契約4,500万円以上の完成した電気通信工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が20パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が4,500万円以上。配置技術者は、監理技術者又は主任技術者として1級電気通信施工管理技士、技術士法による技術士（電気電子部門又は総合技術監理部門（電気電子））、建設業法第7条第2号イ（電気工学又は電気通信工学に関する学科を修めたもの）又はロに該当する者で、4,500万円以上の電気通信工事に係る施工において監理技術者又は主任技術者として施工管理した経験を有する者、国土交通大臣認定者を有する者を専任で配置できること。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格（81,100,000円）が設定されている。

益田市建設工事総合評価方式実施要綱第3条第1項第1号の規定による特別簡易型総合評価方式で入札を実施した。

1者の申請・応札があり、予定価格以下、調査基準価格以上であった。総合評価を実施し、エクシオグループ(株)島根営業所を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】 予定価格が高い総合評価方式であったにもかかわらず、1者のみの応札であった要因を確認したい。

【事務局】 この工事の入札は2回目で、1回目の入札では6者申請があったが、応札したのは1者のみで、しかも調査基準価格失格となり、入札を取り止めた。

2回目の入札では、1回目応札した業者のみが参加して、落札者となった。

この工事は特別な資格は必要ないが、光ケーブル工事は特殊なので、工事経験や現場に詳しくないと施工は難しいかもしれないと担当者から聞いている。

同種工事の経験のある業者は県内に8者程度あるので、入札参加資格を県内に営業所を有する業者としたが、過去に市が発注した同様の工事と同じ業

者が落札している。

評価項目として、市の地域経済の活性化を考慮して、市内業者による受注又は市内業者への優先下請を評価する。

【委員】地理的条件とは何か。

【事務局】技術者が在籍する技術的サポート拠点の所在地として、故障等の緊急時にすぐに対応できれば、利用者の利便性が向上するため、市内又は県内にある場合は評価するものである。

【委員】入札参加資格として営業所所在地は島根県内にして置きながら、評価項目で市内業者を評価するのは矛盾するのではないか。

【事務局】入札参加資格は、最低限必要な条件であり、評価項目は必須ではない。今回の工事は、最低条件が島根県内の営業所であり、市内であれば、地域経済の活性化を考慮すると、より優れた内容の契約になると判断して評価項目とした。

【委員】評価の採点はいつするのか。

【事務局】申請書と一緒に評価資料が提出されるので、応札の前に評価の採点を行うことは可能だが、事後公開として、落札後に評価点は応札金額と同時に公表される。

④横田安富地区農業集落排水通報装置更新工事（1004）

【事務局】この工事は、横田安富地区農業集落排水における監視通報装置の通信方式（PHS）の終了に伴い、新たな通信方式（LTE）へ移行するための機器及び監視システムを更新する工事である。

入札参加資格として、営業所所在地は、営業所を島根県内に有する者、総合点数等は、機械器具設置の総合点数が800点以上の者、施工実績は、島根県内における公共工事において元請として過去15年間に1契約2,500万円以上の完成した機械器具設置工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が20パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が2,500万円以上。配置技術者は、①建設業法第7条第2号イ若しくはロに該当する者。②監理技術者を届け出る場合にあつては、当該表の許可業種の項に掲げる業種に係る監理技術者証の交付を受けており、かつ、監理技術者講習を受けている者であること。③入札に参加しようとする者と本件工事の競争参加資格確認申請日前3月以上の雇用関係にあること。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格（49,400,000円）が設定されている。

益田市建設工事総合評価方式実施要綱第3条第1項第1号の規定による特別簡易型総合評価方式で入札を実施した。

1 者の申請・応札があり、予定価格以下、調査基準価格以上であった。総合評価を実施し、山陰クボタ水道用材(株)を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】技術者について、資格と施工経験の考え方の違いを説明してほしい。

【事務局】入札参加資格で示された技術者資格要件は、建設業法等で定められた技術者になるための必須条件であり、施工経験は必須ではないが、経験があることでより優れた工事を施工できると市が判断した評価項目である。

【委員】参加業者が1 者で落札率が高い理由はなぜか。

【事務局】担当者によると、市としては多くの業者に参加してほしいが、今回の工事は、特殊な真空式下水道システムを採用しているため、業者が敬遠された可能性がある。

【委員】入札参加資格としての営業所所在地は必須なのか。

【事務局】一般的な工事においては、現場に近い業者の方が、工事費は安く合理的であるため、一定数の参加業者が想定され競争が見込まれるならば、可能な限り、より近隣の業者が受注できるように調整している。

【委員】今回の入札は1 者しか参加しなかったのも、入札参加資格の営業所在地は見直しの検討の必要があると思う。

【委員】落札した業者は市内にも支店があるが、そこが施工しないのはなぜか。

【事務局】今回の工事は、機械器具設置工事の資格を持った技術者が必要だが、支店にはその技術者がいないためである。

建設工事：簡易型一般競争入札（3 件）

⑤益田広域消防本部庁舎建設に係る敷地造成工事（1102）

【事務局】益田広域消防本部庁舎は、建設以来本年で5 0 年を迎えており、庁舎は著しく老朽化、狭隘化し、さらに、バリアフリーの対応や女性が働きやすい環境の整備が必要となっている。

また一方で、高齢化、核家族化等の生活環境の変化に伴う救急需要の増加や複雑多様化する災害への迅速な対応が求められるなど、消防の果たすべき役割はますます増大している。したがって、この工事は、住民の負託に応え、消防の任務を果たすためには、更なる消防力の充実強化が必要であり、地域の特性に即した防災・災害活動拠点施設の整備が必要であるため、新庁舎を建設するものである。

入札参加資格として、営業所所在地は、益田市又は鹿足郡内に主たる営業所を有する者、総合点数等は、土木一式工事の総合評定値が8 5 0 点以上、施工実績は、島根県内における公共工事において、元請として過去1 5 年間に1 契約4, 0 0 0 万円以上の完成した土木一式工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が2 0 パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が4, 0 0 0 万円以上。配置技術者は、監理

技術者又は主任技術者として1級土木施工管理技士、1級建設機械施工技士、技術士又は国土交通大臣認定者のいずれかを専任で配置できること。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格（66,200,000円）が設定されている。

益田市建設工事等簡易型一般競争入札実施要綱第3条第1項による簡易型一般競争入札で入札を実施した。

6者の申請のうち5者の応札があり、5者が予定価格以下、調査基準価格以上で、最低価格で応札した3者のくじ引きの結果、(株)桐田組を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】簡易型一般競争入札の中で、予定価格が高く、参加業者も5者あり、落札率も妥当で良い競争が成り立っているように見えるので、中身を検証したい。

【事務局】この工事は、予定価格は高いが、県単価と公表されている積算資料を用いて積算しているため、積算は容易である。そして、技術的工夫の余地が少なく、高い技術力を問わない工事のため、総合評価方式を採用せず、価格のみの入札とした。

【委員】落札率が低く、複数業者が参加して競争になっているので、こういった入札結果が望ましいと思う。

⑥林道大峯線高欄改修工事（1106）

【事務局】林道大峯破線は、林業従事者だけでなく生活道として利用者も多く、幹線林道としての役割を担っており、当該路線のうち白岩町地内にある八ヶ瀬橋について、高欄部分の腐食が著しく、第三者への被害発生が懸念されるため、林道改良事業を活用し、高欄改修工事を実施するものである。

入札参加資格として、営業所所在地は、益田市内に主たる営業所を有する者、総合点数等は、とび・土工・コンクリート工事の総合点数が650点以上であるもの、施工実績は、島根県内における公共工事において元請として過去15年間に1契約500万円以上の完成したとび・土工・コンクリート工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が20パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が500万円以上。配置技術者は、監理技術者又は主任技術者として1級若しくは2級土木施工管理技士、1級若しくは2級建設機械施工技士、技術士、国土交通大臣認定者のいずれかを配置できること。

入札状況について

本件入札には、最低制限価格（11,900,000円）が設定されている。

益田市建設工事等簡易型一般競争入札実施要綱第3条第1項による簡易型一般競争

入札で入札を実施した。

9者の申請・応札があり、全者予定価格以下、最低制限価格以上で、最低価格で応札した8者のくじ引きの結果、東西建設(有)を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】 予定価格が高く、参加業者が多く、落札率が低いので、競争原理が働いていることを確認したい。

【事務局】 高欄は橋のガードレールのようなもので、必須ではなく、高欄と橋の本体は同じ強度でないため、腐食状態は一定でなく、橋梁本体の工事と分けて施工した。そして、一部業者見積もりによる積算はあるが、単価は全て公表しているため、積算は容易であり、工事の難易度も高くないので、比較的業者にとっては参加しやすいと思われる。

⑦卯ノ木用水路復旧工事（1108）

【事務局】 令和3年3月28日未明、向横田町地内にある卯ノ木用水路にて、左岸側の水路上部斜面が崩壊し、倒木及び崩土により水路が15mにわたり埋塞した。当該用水路は、一級河川高津川に設けられた卯ノ木頭首工を水源とし、向横田町地内の農地（主に水田）約20haを灌漑するための幹線用水路である。本工事は、土地改良施設突発事故復旧事業の採択を受け、崩壊した法面の復旧工事である。

入札参加資格として、営業所所在地は、益田市内に主たる営業所を有する者、総合点数等は、法面工事の総合点数が650点以上であるもの、施工実績は、島根県内における公共工事において元請として過去15年間に1契約500万円以上の完成した法面工事の施工実績があること。ただし、共同企業体としての施工の場合は、出資比率が20パーセント以上で、契約金額の出資比率相当分が500万円以上。配置技術者は、監理技術者又は主任技術者として1級若しくは2級土木施工管理技士、1級若しくは2級建設機械施工技士、技術士、国土交通大臣認定者のいずれかを配置できること。

入札状況について

本件入札には、最低制限価格（10,700,000円）が設定されている。

益田市建設工事等簡易型一般競争入札実施要綱第3条第1項による簡易型一般競争入札で入札を実施した。

1者の申請・応札があり、予定価格以下、最低制限価格以上であった、東西建設(有)を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】 他の工事と比較して難易度が高くない工事だと思われるのに、参加業者が1者だった要因を確認したい。

【事務局】 この工事は、現場が道路からかなり離れているため、現場まで車両で材料を運ぶことができず、人力で運ぶ距離が長い。そして、1級河川の付近の工事のため、河川にも防護柵を設置する必要があり、6月から10月の間は洪水が予想され、現場作業員の安全確保や治水施設の機能維持のために工事ができない等、業者にとって非常に手間がかかる工事である。更に、法面処理工事を行う業者が少ない上に、法面処理工事は県も数多く発注していて、今回の工事よりも業者にとって条件が良い工事が多いため、競争になりにくいと推察される。

【委員】 入札参加資格にある、技術士や国土交通大臣認定者とはどのようなものか。

【事務局】 それぞれの工種において、建設業法で規定された同等以上の能力を有すると認められている者である。

建設工事：指名競争入札（1件）

⑧市道横田住宅団地1号線道路改良工事（その3）（1307）

【事務局】 この案件は、対象の市道は狭いため車が離合しにくく、また、大雨が発生した時に排水が不十分で水が道路にあふれる状態であるため、現在の道路にバイパス道路を新たに建設する工事である。

指名業者は、益田市内に主たる営業所を有し、土木工事指名競争入札参加資格の総合点数が600点以上750点未満の業者を17者指名。

入札状況について

本件入札には、最低制限価格（5,540,000円）が設定されている。

6者より応札があり、全者予定価格以下、最低制限価格以上で最低価格の応札があった、(有)石西建設が落札者となった。

【委員】 指名競争入札の工事の中で、予定価格が高く、参加業者が多数で落札率も低かったため抽出した。

【事務局】 この工事は、県単価と、一部建設物価と積算資料を参考とし、全て公表している。業者にとって、積算も施工も容易な工事であるため、結果的に最低制限価格と同額の落札額となったと推察される。また、同規模の業者を多く指名できたことも参加者が多かった要因と考えられる、

建設コンサルタント：（簡易型）一般競争入札（1件）

⑨須子中島排水区流出解析業務委託（2102）

【事務局】 この業務は、雨水管理総合計画※1の策定（浸水リスク評価）に当たって浸水シミュレーションを行うため、地形・地物・構造物等データ、降雨データ及び水位観測データから排水区をモデル化し、対象降雨（計画規模降雨、想

定最大規模降雨等)を与えて流出量を再現し、現有施設的能力評価、対策施設の効果確認を行うものである。

入札参加資格として営業所所在地は、島根県内に営業所を有する者。資格等は、建設コンサルタント部門で「下水道」の登録を有する者。業務実績は、島根県内の公共事業において元請として過去10年間に完了した流出解析業務の受注実績があること。配置技術者は、管理技術者及び照査技術者として技術士(上下水道部門-下水道、総合技術監理部門-上下水道-下水道)又はこれと同等程度の知識と技術を有すると認定された者(認定技術管理者、RCCM、国土交通省登録技術者資格保有者等)を配置できること。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格(7,754,000円)が設定されている。

益田市建設工事等簡易型一般競争入札実施要綱第3条第1項による簡易型一般競争入札で入札を実施した。

2者の申請・応札があり、1者が予定価格超過で、予定価格以下、調査基準価格以上で応札をした(株)荒谷建設コンサルタント益田事務所を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】建設コンサルタント業務の中で落札率が低かったこと、2者の応札金額に開きがあった要因を確認するために抽出した。

【事務局】これまでの雨水管理計画では10年に1度の大雨の条件でシミュレーションしていたが、国の基準が変わり、想定しうる最大の大雨でシミュレーションする必要があった。更に、今回依頼した調査区域は、区画整理事業が計画されていて、新たに区画整理後の地形でシミュレーションする必要があった。入札参加資格を島根県内としたのは、市内で流出解析の実績がある業者が少なかったためである。積算は、日本下水道新技術機構が公表している単価を参考にした。落札業者は、過去に市の同様の業務実績があり、今回の業務に精通していたため、低い金額で応札できた可能性がある。

建設コンサルタント：指名競争入札(1件)

⑩澄川水源地施設更新設計業務委託(2312)

【事務局】この業務は、澄川水源地送水ポンプ場建屋は老朽化しており、送水ポンプ施設と塩素注入施設が同室内にあることで、塩素ガスによる建屋内機器等の劣化が著しいことから、ポンプ室建屋について更新に向けた詳細設計を行うものである。

指名業者は、浜田市以西に営業所を有する者で建設コンサルタント(上水道及び工業用水道)に登録があり、管理技術者及び照査技術者として技術士法に基づく技術士、RCCM又は大臣認定を有する技術者を各々配置できる

者を13者指名する。

入札状況について

本件入札には、調査基準価格（3,302,000円）が設定されている。

12者より応札があり、11者が全者予定価格超過で、予定価格以下、調査基準価格以上の応札があった、(株)ウエスコ益田営業所が落札者となった。

【委員】比較的高価な指名競争入札で、参加者が多いのにもかかわらず、落札率が高かったため抽出した。

【事務局】一部の積算について、設計対象施設の水量に応じて補正係数を用いていたが、補正係数を公表していなかったため、異なる補正係数を用いることで結果的に金額高く見積もり、予定価格超過の業者が多くなった可能性がある。

【委員】補正係数を公表する必要はなかったのか。

【事務局】仕様書では、設計対象施設の水量は明記していて、そこから補正係数を推計することは可能であったため問題ないと考えていたが、結果的に多くの予定価格超過が発生したので、補正係数を公表した方が良かったかも知れないと考えている。

物品調達：一般競争入札（2件）

①消防ポンプ自動車（CD-1型）（3103）

【事務局】益田市消防団第19分団本部（匹見・江田地区）に配備する消防ポンプ自動車について、消防車適合シャシに消防ポンプ装置（消防検定A-2級）を装備するとともに必要な器具を積載するものであって、一般火災に対し速やかに活動できる水ポンプと大容量の真空ポンプの組み合わせにより揚水及び送水能力を向上させ、操作サポート機能を有した装置を併せ持った安全でスムーズな活動が行うことができるものである。

入札参加資格としては、営業所所在地等は、益田市物品の売買等入札参加資格名簿大分類「消防・防災用品」小分類「消防車両」に登録され、中国管内に営業所を有する者、納入実績は、過去15年間に国又は地方公共団体に消防ポンプ自動車の納入実績のある者、その他納入後、納入物品に事故又は障害が発生した場合は、即時に対応が可能な者。

入札状況について

本件入札には、最低制限価格が設定されていない。

予定価格が高額なため、公平に価格競争ができるよう益田市契約規則第5条に基づき一般競争入札で入札を実施した。

2者の申請・応札があり、全者予定価格以下で、最低価格で応札をした、(株)吉谷を益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】 予定価格が比較的高い案件で、落札率が低いため抽出した。

【事務局】 消防ポンプ自動車について、市内では現在6台配備していて、耐用年数は約15～20年、今回は一般的な装備のものである。既製品でなく特注であるために定価のようなものはなく、過去の納入実績と業者の見積りを参考として予定価格を設定した。

【委員】 参考見積りは何者採ったのか。

【事務局】 落札業者も含めて2者である。

【委員】 入札参加資格を中国管内に営業所を有する者としているが、想定される業者は何者あるのか。

【事務局】 過去に消防ポンプ自動車の納入実績のある業者は4者程度である。

【委員】 入札調書の備考欄にインターネットと記載があるのはどういう意味か。

【事務局】 消防車両の入札については、原則インターネットによる電子調達システムを使った電子入札で行うこととしていて、業者がインターネットから応札したことを表している。電子入札で行う基準は、工事及び測量、建設コンサルタント業務は全て電子入札で行い、物品・役務は、電子入札に必要な設備を導入している業者が多く参加が想定される場合には、電子入札で行い、そうでない場合は、紙入札又は郵便入札を行っている。市としては、電子入札の割合を増やしたいと考えている。

⑫益田市立中学校教育用コンピュータシステム更新業務（リース対象物件）（3105）

【事務局】 この案件は、本市が平成28年度に整備した「益田市立中学校教育用コンピュータ・周辺機器及びソフトウェア」の更新及び令和2年3月版、文科省の推進するGIGAスクール構想の実現に関する標準仕様書に沿って整備してきた、益田市立中学校の校内LANのさらなる強靱化と、令和4年3月改定の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づきセキュリティの強化を目的とするものである。

入札参加資格としては、営業所所在地等は、益田市物品の売買等入札参加資格者名簿大分類「文具・事務用機器類」・小分類「OA機器」の登録を有し、益田市内に営業所を有する者。

入札状況について

本件入札には、最低制限価格は設定されていない。

予定価格が高額なため、公平に価格競争ができるよう益田市契約規則第5条に基づき一般競争入札で入札を実施した。

1者の申請・応札があり、予定価格以下で応札をした、㈱タイピックを益田市競争参加資格審査会で落札者とした。

【委員】高額な案件の一般競争入札であるのに、参加者が1者のみで落札率が高いため抽出した。

【事務局】前回、平成28年度に行った同様の入札の時は、2者応札があった。今回は新型コロナウイルス感染症による世界情勢の影響で、精密機器の納入時期が見通せなかったことで、納期を守ることが難しいと判断し、各業者が入札に参加しなかった可能性がある。

【委員】過去に落札した業者の方が有利な入札になってはいないか。

【事務局】仕様書で定めた機器類は、特殊なものではなく、かつ、前回2者応札した業務内容と大きく変えていないため、競争性は保たれていたと考えている。

【委員】結果的に1者のみの応札だったので、仕様について今後検討すべき案件だと考えている。

物品調達：指名競争入札（1件）

⑬高齢者福祉施設電動ベッド一式（3315）

【事務局】この案件は、市が指定管理制度を導入している介護老人福祉施設で使用している老朽化した電動ベッド等を毎年計画的に更新している。

指名業者は、益田市内に営業所を有する者で大分類「医療・理化学機器類」小分類「福祉機器」に登録がある者を12者指名する。

入札状況について

本件入札には、最低制限価格が設定されていない。

3者より応札があり、全者予定価格以下で、最低価格で応札があった(有)椋木商会在落札者となった。

【委員】指名競争入札の中では比較的予定価格が高く、落札率が低かった要因を確認するため抽出した。

【事務局】予定価格は、メーカー希望小売価格と業者の見積りを参考に設定している。過去の実績から、福祉機器は他の物品と比べ価格設定が高く、落札率が低くなる傾向がある。

一般的な電動ベッドの耐用年数は8年程度と言われているが、市の施設の電動ベッドは、限られた予算の中で約160床のベッドを計画的に更新しているため、部品交換をしながら20年以上使用しているものもある。仕様は、指定管理事業者の要望を参考に決めている。

【委員】前回の入札と同じ業者が落札しているのか。

【事務局】前回と同じ業者が落札しているが、複数の業者が応札し、かつ落札率も低いので、競争性は保たれていると考えている。

以上